

やまなし

## 医療最前線

県立中央病院から

《 37 》

男性と女性ではかかりやすい病気をはじめ、治療法や予防方法にも違いがある。県立中央病院は、病気の背景にある男女差に考慮した女性専門外来を2005年に開設。女性ホルモンの変動に応じて起こる不調など、女性特有の症状に対応している。

女性の社会進出などに伴い、男女差を考慮した医療の必要性が国内で叫ばれ始めたのは2000年ごろから。01年に鹿児島県で初めて女性専門外来が設置され、ニーズの高まりとともに全都道府県に拡大。現在、300〜400施設に増加している。



縄田 昌子  
女性専門外来  
副科長

## 専門外来で適切な治療を

分泌量の変化に影響を受ける不調では、月経前症候群や更年期障害、自律神経失調症などがある。自律神経のバランスが崩れると、頭痛や肩こり、便秘、下痢、不安感などさまざまな症状が現れるが、血液検査や画像検査では異常が出ないという。

「さまざまな症状が重なり、何科を受診すればいいかわからない」「検査では異常がなかった」。女性専門外来ではこうした診療や治療に悩む患者に対応し、初診1時間、再診15分の診療時間を確保。

「各専門外来のはさまに落ちてしまい、どの診療科にも当てはまらない」といったケース

スにも、ゆっくり患者の話を聞きながら症状を整理し、適切な治療や方向づけを行っている。

エストロゲンは血管を広げて血液を流れやすくし、悪玉コレステロールを減らすほか、骨の吸収を抑制して骨密度を保つ働きがある。このため50歳ごろになると、エストロゲンの急激な減少に伴い、コレステロールや血圧、血糖値の上昇、骨密度の低下などが起こりやすくなるのだという。

縄田医師は「食事や運動、睡眠などの生活習慣を見直し、ホルモンの変動とうまく付き合っていくけるよう指導、治療していきたい」と話している。Ⅱ第2、4木曜日に掲載します

### エストロゲン低下に伴う症状や病気

40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>自律神経失調症状</li> <li>のぼせ、ほてり、発汗異常、動悸(どうき)、めまい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神神経症状</li> <li>倦怠(けんたい)感、不眠、不安、抑うつ、記憶力低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>泌尿生殖器の萎縮症状</li> <li>老人性膣炎、外陰部掻痒(そうよう)症、性交障害、尿失禁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症(痴呆)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨量減少症、骨粗しょう症</li> <li>腰痛、脊椎後わん、とう骨折、大腿(たいたい)骨頸部骨折</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高脂血症、高血圧、動脈硬化性疾患</li> <li>狭心症、心筋梗塞、脳梗塞</li> </ul>			